

【生きづらさをひも解く 私達の精神疾患(その3)】(南部)

体験者だけが書いた全く新しい精神疾患の教科書として出版された【生きづらさをひも解く 私たちの精神疾患】本を前号に引き続き紹介したいと思います。

第2部 私たちにとっての精神疾患

第3章 精神疾患って何だろう

私たちの視点から精神疾患をひも解く

たとえば、ある人が突然叫びだしたとしましょう。この叫びだした人は、「何だかこれまで感じていた不安が頭の中で一杯いっぱいになって、助けを求めたかったけれども、言葉にならないまま泣き叫んでしまった」のかもしれませんが。ところがまわりの人にとってみれば「突然叫びだした」と感じます。つまり、まわりの人にはそこに至る「これまで感じていた不安が頭の中で一杯いっぱいになって」というプロセスをすっ飛ばして「叫ぶ」というところしか見えていないのです。

このことを考えてみましょう。私たちには、脳のメカニズムなんて分かりません。そして周りの人にとってその人の行動は異様に見えます。でも本人にしたら、その行動(ここでは「叫び」)には理由があるのです。この背景やプロセスを見落として、「この患者は突然叫ぶほどの重篤な精神状態で、治療や支援が必要である」と結論づけてしまうとさまざまな場面で本質と異なる医療・福祉・行政の対応がなされてしまいます。

「行動が異常だから注意人物だ」、「精神を安定させる薬を飲ませて黙らせよう」、「うるさい危険だから保護室にいれよう」、「自分自身を傷つけるかもしれないから身体拘束が必要だ」——このような対応は精神疾患をめぐる歴史の中で今現在もごく普通に行われています。

決して昔のことではないのです。今現在、今のこの瞬間でも行われているのです。「何だかよく分からなくて怖いから何か対応しておかなくては」という状況に対して、残念ながら医療の専門家であるお医者さんもミスリードしている部分があります。



明石ともしび会よりお知らせ

相談窓口	日時・内容		場所
こころやすらぐ ひろば (相談と居場所 です)	6月2日(日)	11時 ～ 15時	ふれあい作業所
	6月16日(日)	15時	
こころの 相談窓口	6月10日(月) 24日(月)	10時～14時 担当: 城川、岩永	明石市立 勤労福祉会館 「あすく」

「こころの相談窓口」 ご相談がある方は当日お越しく下さい。

出来ましたら事前にご連絡をお願いします。(電話: 090-1138-4777 岩永)

「こころやすらぐひろば」では、ネットでの相談もできます。

メールアドレスは、kokoro20218fureai@yahoo.co.jpです。(南部)